

猫から人にうつる病気はいくつかありますが、その中にトキソプラズマ症という寄生虫病があります。妊娠中の女性がこの寄生虫に感染すると、流産・死産や赤ちゃんに先天性の障害を引き起こすことがあります。

感染した猫は、オーシストと呼ばれる寄生虫の卵のようなものが糞ふんとともに排泄はいせつされ、これが口に入ることによって人に感染するため、「妊娠中は猫に注意」とよくいわれています。

周りから「妊婦さんに猫は危険!」と忠告され、「大切な愛猫を手放すべきでしょうか」と動物病院に相談に来られる方も時々います。

あんしんペットライフ 64

妊婦さんと猫

しかし、実際に猫がオーシストを出すのはトキソプラズマに初感染した後、1～3週間に限られます。また、妊娠中に発症するのも、その人が初めて感染したときだけで、過去に感染歴があれば発症する危険性は極めて低くなります。感染歴を知るために病院（猫は動物病院）で検査できます。

一方、トキソプラズマは豚や羊などの家畜を含むほとんどの哺乳類や鳥類の筋肉内に潜むことがあります。こうした感染動物の肉を十分加熱せずに食べて感染することもある

ります。

猫からうつる病気があるからと、やみくもに愛猫を遠ざけることが最善の方法とはいえません。妊娠中に初感染しないために、愛猫を室内飼いにして生肉を食べさせず、猫のトイレ掃除をできるだけ家族に任せ、手洗いをしっかりとすることが大切です。

病気の正しい知識を持ち、愛猫と接することで、よりマタニティーライフを楽しんでいただけることを願っています。

(アニコム獣医師
酒井雅代)